



カンボジアの子どもたちに教科書を

2017年9月 No. 62

カンボジア便り

丸山 芳彦

～目 次～

カンボジア便り	1～2
ボランティアさんの感想	3～5
事務・会計報告	6

7月に、リティさんは NFEC（当会が支援する非正規識字学校）を訪問しました。

驚いたことに、NFECに通う児童は急増していました。NFECでは2つのクラスに分かれて授業を行っています。小学1年生と2年生の教科書を使っている「クラス1」と3年生以上の教科書で教えている「クラス2」です。現在通っている児童の数は、これまでで一番多くなっています。特に「クラス1」は、通常の倍近い45人が通っています。「クラス2」は14人です。

何人かは、NFECから2Km離れているアジア未来学校のある Anlongkong Thmei（アンロンコン・タマイ・NL60で紹介）の近所からわざわざ通っています。

リティさんに、どうしてNFECに通う児童数が急増したのかを調べてもらったところ、次のような理由があることが判りました。

■年少の「クラス1」の場合

何人かの児童はまだ4歳、5歳で、小学校入学の年齢に達していません。彼らの両親は、来年小学校に入る準備として、NFECに子供を通わせています。NFECで小学1年の基礎を学ばせれば、来年公立小学校に入学してからの勉強に役立つと考えているようです。

■年長の「クラス2」の場合

一部の児童は、公立小学校にも通っていて、いずれも3年生か4年生です。NFECに来ているこれらの児童は読み書きがあまりできない、落ちこぼれの児童のようです。彼らは両親がNFECに連れてくる場合が多く、両親はその丁寧な教育に期待しています。

■ NFECを頼っている児童

NFECは、いろいろな理由で正規の公立小学校へ通えない児童のための識字学校として設立されました。この本来の主旨に沿った状況で通っている児童は依然として多いようです。尚、NFECは非正規の学校ですが、中学校入学の条件は正規公立小学校と同等に扱われています。



今回のリテイさんの調査で、NFECでは当初の主旨から外れた目的で通う児童も増えてきたことが明らかになりました。

1. 公立小学校への入学準備を目的とした通学・・・「クラス1」の場合



2. 公立小学校での落ちこぼれ児童の受け皿としての通学・・・「クラス2」の場合

これも、カンボジアが全体的に豊かになり、教育事情も少しずつ好転している表れではないでしょうか。

NFEC 設立当時と

比べると、児童の服装が綺麗になったことや、児童の何人かは当時は誰も持っていなかったノートを持っていることから、この数年の生活レベルの改善を窺い知ることができます。

我々は、この状況を受け入れて今後もしっかり NFEC を支援していきます。

ボランティアに参加して

会社員 川口 廣起

まず、私がボランティア活動に参加しようと思ったきっかけは、会社でボランティア活動を行うようにという話があったからです。そこでインターネットでボランティア活動を探していました。ボランティアの募集サイトには様々な活動が募集されていましたが、休日に初心者でも参加しやすい活動はないかと考えていました。そんな時に、この「ニュースレター発送ボランティア」を見つけました。なぜこの活動を選んだのかというと、まず作業内容が宛名書きなどの、ボランティア初心者の私でも行えそうな内容だと思ったからです。さらに、日程が休日であったため仕事に影響を与えずに参加可能でした。作業時間も長くはなく、途中で早退可能との事だったので、他に予定があっても参加出来ると考えたので、この活動に参加しました。

実際に参加してみると、スタッフの方々の雰囲気がとても良い印象を受けました。受付や作業の説明、全体の進行等、ボランティア参加者が特に迷う事なく、丁寧に優しく対応して頂いていると思いました。私が参加した日は、ほとんどが学生だったため、周囲に馴染めないと思っていました。しかし、社会人であるスタッフの方々が話し掛けてくださったので、問題なく過ごすことが出来ました。作業内容では、特に大変だと感じたのは、手紙へのメッセージ書きです。普段手書きで文章を書く機会がほとんどなく、字もきれいではないため安定した文字を書くのに苦労した印象が残っています。



参加するまでは、日
日韓アジア基金という団体がどんな団体なのか分かりませんでした。説明の時間を設けていただき、そこでカンボジアの教育支援を行っているということを知りました。このボランティアの作業も、その活動の一環であるという事も分かりました。

《まず作業のオリエンテーションから》 団体では他にもいくつもの活動を行っているとの事でした。私が参加出来る活動は少ないと思いますが、可能な範囲で参加したいと思いました。

初めてボランティアを経験して

学生 蕪山乃菜

「誰かの役に立ちたい」。恥ずかしながら、私がボランティアに参加した理由はそんなものではありませんでした。もともとは受験が近く、書類を書くのに必要だから、何か社会貢献をすれば有利になるから、そんな理由で、ボランティアを探していました。これまでボランティアを経験したことはもちろんありません。どのように探していけばいいのかもわからずに、ただインターネットのサイトを眺めていました。そしてふと目に留まったのが日韓アジア基金。教育について関心があったこと、そして半日でできるということでもあり応募を決めました。送られてきた作業マニュアルや説明を読み、意識が高まるにつれて、緊張感が増しました。以前から、私はボランティアに対して、堅苦しく厳しいイメージがあったこともあり、『行きにくいな、やめようかな』と途中で考えたりすることもありました。

ところが実際に参加すると、自分の描いていたイメージと 180 度違うということがわかりました。まず様々な年齢層の方がいるのに驚き、その中でのアットホームな雰囲気に驚かされました。

作業は印刷されたニュースレターを折るところから始まり、シール貼りや袋詰めなどでしたが、一番やりがいがあったのは手書きのメッセージでした。自分の字をそのまま読んでもらえるということを考えながら作業をしていると、自然とやる気が出ました。

私は今回のボランティアを通して、楽しみながら誰かの役に立てるということの充実感を味わうことができました。そのようなことも含め、実際に経験してみないと分からないことがたくさんあると感じました。そしてボランティアは一生に一回は経験するべきものだとも思いました。

最初はどんな理由でもいいと思います。でもきっとまた参加したくなると私は思います。

今後大学で教育のことや発展途上国の子供たちについて学ぶことができたとしたら、また違う形で様々な団体に貢献できるといいなと考えています。そして積極的にいろんなボランティアに参加したいと思います。

そのように考えるきっかけを作ってくくださった日韓アジア基金の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

印象に残ったディスカッション～ビビンの会に参加して～

高校生 武本 栄里

日韓アジア基金が主催するビビンの会に今回初めて参加しました。以前から生まれ育った国を離れ異国に住む外国人に関心があり、特に日本に来た韓国人の方のお話を伺いたいと思っていました。なぜならば私の祖先は韓国にルーツを持つからです。そんな時、ネットでビビンの会の存在を知り、「これだ！」と感じこの交流会に参加しました。

皆さん高校生の私よりも年上で社会人の方が多く、「話が合うのか?」「なにを話せばいいの?」と不安になりましたが、ビビンの会の参加者は皆さんフレンドリーですぐに笑顔になることができました。

この交流会の中で一番印象に残ったのはディスカッションです。

私のグループのテーマは「仕事」についてでした。韓国と日本の企業形態の違いや、実際に体験されてきた方の話は面白く興味深いことばかりで、このディスカッションを通じて韓国と日本の違いや、日本に住む外国人のリアルな声を聞くこと

が出来ました。色々な話を聞いて異国で暮らすことがどんなに大変なことなのか身近に感じることもできました。

他のグループは「日韓の男性の違い」について話していて、韓国の男性は女性のエスコートが上手だがマザコンが多いとか、日本の男性は真面目だが消極的すぎるなど様々な意見を聞いて思わず笑ってしまいました。

この交流会で触れるもの、感じる



《会が終わればみんな笑顔》

ものは全て新鮮でした。外国人と聞くと、私たちにとってすごく遠い存在のように感じますが、お互い同じ人間であり、きちんと話せば心を通わせることができます。

ビビンの会にはお金や権力で成り立った関係ではなく、人と人との繋がりがありました。国や国籍にとらわれず、どんな人も以前からの知り合いのように受け入れてくれる。これがビビンの会の素晴らしさだと思います。最後の食事会も予定があり参加できませんでしたが、きっと参加していたらもっと楽しいお話が伺えたと思うと残念です。これからもビビンの会に参加したいと思います。ありがとうございました。

当イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2017年4月15・16日 ニュースレター60号 印刷・発送作業 (19名)

伊藤弘亮・稲垣瑞恵・大澤龍・長内麻誉・蕪山乃菜・キムドウヒョン・姜雷・後藤優佳・齊藤乃章・櫻井寧々・高野華代・田倉京・千葉 まゆみ・中尾真理子・古信宏一・星野廣平・丸山芳彦・水谷充徳・三田柊子

2017年6月24日 ビビンの会・運営スタッフ (10名)

秋山タクミ・猪俣ゆう子・大澤 龍・キムドウヒョン・霧山祐司・久保田裕美・小森新・齊藤 乃章・ジョウンミ・丸山 芳彦

2017年7月8・9日 ニュースレター61号 印刷・発送作業 (13名)

浅見友香・磯山恵・稲垣瑞恵・大澤龍・加藤舞・蕪山乃菜・川上裕里乃・川口廣起・小林葵・齊藤 乃章・千葉 まゆみ・丸山 芳彦・山口しおり

2017年7月11日～2017年8月9日に会費・ご寄付を下さった方 (敬称略・五十音順)

井内 和夫	下村 紀雄	松本 昌幸	山沢 勲
磯尾 彊一	武之内 教男	満井 啓二	吉崎 玲子
唐澤 一登	千葉 まゆみ	矢崎 芽生	吉村 悦子

荒川 雄彦 千恵子 | 福島 忠男 シゲ

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

郵便振替口座

支店名 ○一九(ゼロイチキョウ)店
口座番号 当座 00180-2-25153
口座名義 日韓アジア基金
(カタカナ表記 ニツカンアジアキキョ)

活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(A B K)内
T e l : 090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX : 03-3946-7599 (A B K)
E-メール : jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: <http://www.iloveasiafund.com>

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也